慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	テレビ番組を話題とした2ちゃんねる上のコミュニケーションに関する検討 : Twitterとの比較を通して
Sub Title	How do television viewers communicate on "2-channel"?
Author	志岐, 裕子(Shiki, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2017
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media and communications research). No.67 (2017. 3) ,p.83- 96
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20170300-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

テレビ番組を話題とした2ちゃんねる上のコミュニケーションに関する検討

――Twitterとの比較を通して――

志岐裕子

1．問　題

本稿は，テレビ番組に関して投稿されたインターネット上の書き込みを内容分析することを通じて，視聴者がテレビ番組を話題としてインターネットに書き込みをおこなう際，利用するサービス（言い換えれば，書き込みをおこなう「場」）によって，その内容やテレビ番組において注目する点にどのような特徴があらわれるのかという問題について検討することを目的とする。

近年，インターネット技術のさらなる発展，とりわけモバイルデバイスにおけるネット技術の発達によって，電子掲示板やソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）といった発信型サービスの種類が増加するとともに，また，そこへ参加するユーザーの数もさらに伸びている（総務省，2015）。こうした傾向によって，テレビとインターネットの並行利用，すなわち番組を視聴しながら，その内容をネット上に書き込んだり，他のユーザーと意見を交わしたりする傾向も増えていると考えられる（小島・執行，2014; 三浦・小林，2010; 志岐，2013; 志岐・村山・藤田，2009; 志岐・渋谷・萩原，2012など）。

こうした視聴者による書き込みがおこなわれるサービスにおいて，テレビ番組はコミュニケーションが始まる契機，すなわち最初の情報提供者としての役割を担っている。テレビ番組を見ながらのネットへの書き込みは今や日常的な行為といってもよい。ただし，それぞれのインターネット上のサービスは，プログラムとしてのシステムは勿論，インターフェイスもそれぞれの目的に合わせて最適化されたかたちで設計されている。最も典型的な違いを挙げれば，２ちゃんねるのような電子掲示板は，“コミュニティ”として，同じテーマに関心を持つ人々が集まっており，コミュニケーションがいわばリニアに動いている。そこでは話題のメインストリームができやすく，そこから少し外れた書き込みがあると「流れに乗っていない」と感じられる。一方，Twitterはそれぞれの投稿が「点（＝それぞれが個別に投稿した書き込み）」としてタイムライン上にあらわれる。Twitterにはハッシュタグという同じ話題について発言している人の投稿内容を一覧として表示させる機能があり，テレビを見ながらツイートを投稿する際などによく使用される。これは投稿を時間軸に沿ってリニアに整列させはするが，あくまでも「点の集合体」であり，２ちゃんねるのような継続的な議論にはなりにくいと考えられる（志岐，2015）。

こうした，インターフェイスやシステムなどをはじめとしたサービスの違いは，テレビ番組をもとに情報を発信する視聴者の意識にどのような影響を与え，また，その書き込みにどのような違いをもたらすのだろうか（あるいはもたらさないのだろうか）。以上のような関心のもと，筆者は探索的研究として，特定の番組に関して投稿された２ちゃんねる上の書き込みについて内容分析を実施し，同様の分析を Twitter 上の書き込みについておこなった結果と比較した。具体的には，Twitter と２ちゃんねる上で取り上げられる話題，書き込み件数の推移，放送内容と投稿内容の関係性といった視点から，実際に投稿された内容にみられる特徴を明らかにすることに焦点を当て分析を実施した。本研究のうち，Twitter についてはすでに報告済みであるため（志岐，2015; 以下，関連研究と呼ぶ），本稿では２ちゃんねる上の書き込みについての内容分析結果を報告する。テレビ番組の視聴者が２ちゃんねる上で番組について投稿するとき，彼らは番組のどのような点に注目しコメントの投稿をおこなうのか，という問題について検討するとともに，同番組について Twitter 上に投稿されたツイートについて内容分析した関連研究結果（志岐，2015）と比較することで，利用するサービスによって投稿内容にどのような違いがみられるかについても考察していきたい。

▶ 2．方　法

2-1．分析対象

2014 年 7 月 26 日（土）18 時 30 分から 27 日（日）20 時 54 分にかけて放送された『武器はテレビ。SMAP×FNS 27 時間テレビ』（FNS 系列）に関する２ちゃんねる上での投稿を分析対象とした。当該番組を分析対象として採用した理由は，娯楽系のテレビ番組がインターネットとの親和性が高いため（志岐，2013），そして放送内容が多様であることから，あらゆる視聴者の反応をデータとして確保することが可能なためである。本稿ではこのうち，番組の 2 日目の 18 時 20 分から放送終了後の 20 時 59 分までに投稿された内容について分析した結果を報告する[(1)]。投稿された書き込みの収集は，２ちゃんねるにおける当該番組の実況板スレッドへの投稿を収集した。そのうち，上記の分析対象に該当する時間帯に投稿された書き込みの件数は 23,872 件であった。これらの書き込みのうち，複数行にわたるアスキーアート（AA）は分析処理が不可能であるため除外した（ただし，AA とともに意味を成す文章や単語が含まれている場合には，その部分だけを残し分析対象に含めた）。最終的に，23,822 件の書き込みを以下の分析対象とした。

2-2．分析方法

まず，関連研究（志岐，2015）と同様に，放送された番組内容にしたがい番組を５つのパートに区分した。その後，分析対象となる書き込みを，その投稿時刻にしたがって，「5 つのパート」+「放送終了後」の 6 つに区分した。本研究では，投稿全体にみられる特徴だけでなく，各パートにみられる特徴を探るため，『社会調査のための計量テキスト分析（樋口，2014）』にしたがい，上記 6 つの区分を「H1」とする分析対象データの HTML マーキングをおこなった。

分析では，投稿された書き込みついて，頻出語，語と語の共起関係を KH Coder[(2)] を用いたテキストマイニングをおこなうことにより検討した。また，必要に応じてその他の追加的な分析も実施した。これらの結果を参照しながら，視聴者が番組のどのような点に注目しているのか，また，２ちゃんねる上の投稿からはどのような特徴が見出されるか，Twitter へ投稿された同番組に対するツイートと比較してどのような共通点や相違点がみられるかという問題について検討をおこなった。

3．結　果

3-1．番組内容と書き込み件数の推移

番組内容の区分（**表 1**）にしたがって，分析対象データを（Ⅰ）アニメ：サザエさん，（Ⅱ）ライブ会場レポート，（Ⅲ）音楽：SMAP ノンストップライブ，（Ⅳ）サプライズ発表・ライブの感想，（Ⅴ）フィナーレ，（Ⅵ）放送終了後の 6 つのパートに区分した。

分析対象の投稿 23,822 件のうち，第Ⅰ部に投稿されたものが 2,332 件（平均 83.3 件／分），第Ⅱ部が 2,329 件（平均 96.9 件／分），第Ⅲ部が 10,388 件（平均 199.8 件／分），第Ⅳ部が 2,732 件（平均 248.4 件／分），第Ⅴ部が 5,824 件（平均 166.4 件／分），第Ⅵ部が 217 件（平均 43.41 件／分）であった。番組放送時間内（第Ⅰ部から第Ⅴ部）に投稿されたものが 23,605 件，放送終了後（第Ⅵ部）に投稿されたもの 217 件であった。書き込み件数の推移を 1 分刻みで示したものが**図 1** である。

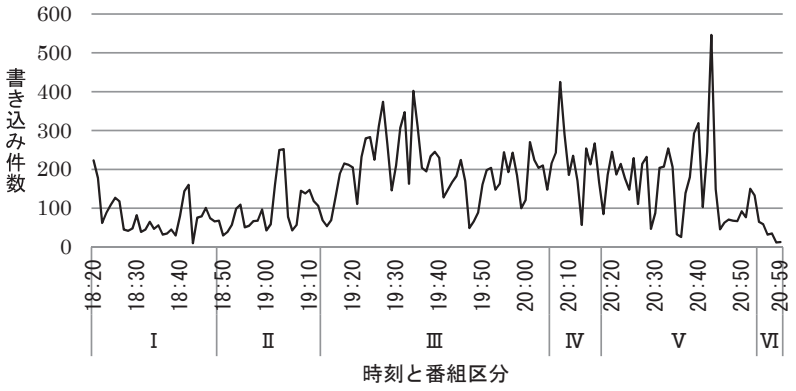
図 1 から，全体的に第Ⅲ部，第Ⅳ部，第Ⅴ部の書き込み件数が相対的に多いことがわか

●表 1　『武器はテレビ。SMAP×FNS27 時間テレビ』の放送内容（分析対象部分）と区分

区分	放送時間	主な放送内容
Ⅰ	9月27日 18:20-18:48	アニメ：サザエさん　星空の映画会/ぼくはヒーロー/笑顔のレシピ
Ⅱ	18:49-19:12	ライブ会場レポートほか　ライブ会場レポート/さんま監督のCM披露/クイズ/ざわちんSMAPメイク完成/ライブ会場レポート/スペシャルプレゼンター・爆笑問題のトーク
Ⅲ	19:13-20:05	音楽：SMAPノンストップライブ　SMAPノンストップライブ/トーク
Ⅳ	20:06-20:17	サプライズ発表・ライブの感想　SMAP がフジテレビまで歩くことが発表される/ライブの感想（キャイ～ン・森口博子・森脇健児・爆笑問題・山崎弘也・指原莉乃・劇団ひとり）
Ⅴ	20:18-20:53	フィナーレ　SMAPフジテレビまで歩く/SMAPへのメッセージ（笑福亭鶴瓶・ナインティナイン・松本人志・明石家さんま・ビートたけし・森田一義）/森且行からSMAPへの手紙/グランドフィナーレ/SMAPフジテレビ到着/新人アナウンサーによる提供スポンサー紹介/SMAPによる感想
Ⅵ	20:54-20:59	放送終了後

注）実際の放送は秒単位で番組コーナーが転換するため，実際の放送時刻との間に若干のズレが生じている場合がある。

図 1　書き込み件数の推移



る。第Ⅲ部には番組の目玉企画ともいえるSMAPのノンストップライブが放送され，それ以降第Ⅴ部の放送終了前まで200件前後を推移しながら多くの書き込みがおこなわれている。

さらに，書き込みが急増したポイントがいくつか確認された[3]。具体的には① 19:03頃：ざわちんのSMAPモノマネメイクが完成，披露する場面，② 19:32頃：ライブ中のSMAPメンバー中居正広が座り込み，一瞬ステージ上からいなくなった場面，③ 20:08頃：SMAPがライブ会場からフジテレビ本社まで歩いて帰るサプライズ企画が発表された場面，④ 20:16頃：番組出演者たちがライブの感想の述べた場面，⑤ 20:39頃：SMAPが並んで最後に坂道を上る場面，⑥ 20:43頃：フジテレビ新人アナウンサーによる提供スポンサー紹介，である。特に多くの投稿が寄せられたのは19:34（402件）:「世界に一つだけの花」のソロパートを中居・木村・草彅がそれぞれ歌う場面，20:08（425件）：サプライズ企画の発表，20:43（546件）：新人アナウンサーが提供スポンサーを紹介する場面のタイミングであった。

その後，書き込み件数は急激に減少し，番組終了後は，12〜65件 / 分のペースで投稿が続いていた（平均36件／分）。

3-2. 投稿者同士のコミュニケーション

２ちゃんねる上において，投稿者同士のコミュニケーションはどの程度おこなわれていたのだろうか。分析対象のなかから他の投稿者に宛てたメッセージを投稿する際に付与される「>>（コメント番号）」の文字列が含まれているものを検索し，さらにそれらの投稿が他の投稿者に宛てた書き込みであることを１件ずつチェックした上でカウントした結果，書き込み件数は1,632件（6.85%）であった。番組区分別にみると，第Ⅰ部が190件，第Ⅱ部が241件，第Ⅲ部が564件，第Ⅳ部が171件，第Ⅴ部が413件，第Ⅵ部が53件であった。

3-3. 基本統計量および抽出語の選定

ここでは，各パートにおける書き込みの特徴を探る下準備として，分析対象全体の概要を確認する。まず，分析対象となった書き込み全体に対して形態素解析をおこなう必要があるが，分析対象データはインターネット上における発言であるため，ネット独特の言い回しを用いた投稿も数多い。なかにはソフトの基本設定では抽出されないものの分析においては抽出することが望ましい語が存在している。それらの語を抽出するために，次の段階からの分析において強制抽出する語の選定をおこなった。また，インターネット上の書き込みには多くの未知語が含まれていることも多いため，単独でも意味が把握しやすい品詞に絞って分析を実行した[4]。ただし，「未知語」に分類される語のなかでも「w」などネット用語として広く普及しているものは強制抽出し分析対象に含んだ。

上記の強制抽出および品詞の絞り込みの処理をおこなった後，分析対象に対し形態素解析をおこなった結果，総抽出語数は262,953語，異なり語数は11,632語，分析対象となっている語（使用）は6,266語であった。抽出語の出現回数の平均は14.32回（$SD = 295.78$）であった。抽出語の出現回数と度数を確認したところ，出現回数が１回のみの抽出語は2,797語（44.64%）であった。また，出現回数が15回以下の抽出語の累積度数は5,624語（89.75%）であり，全体の約９割を占めていた。

3-4. 頻出語について

番組に関する投稿全体のなかでどのような語句が多く使われていたのかを確認するため，頻出語リストを作成した。上位100語をまとめたものが**表２**である。

●表2　頻出語リスト（上位100語）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
w	22457	歩く	208	森	142	ワロタ	104
w	4919	テレビ	204	企画	137	メンバー	103
中居	2820	知る	202	森脇	137	休む	103
SMAP	956	声	201	大丈夫	137	女	103
森	819	顔	200	帽子	134	意味	102
キムタク	687	木村	200	体力	131	中井	101
キタ	629	似る	196	演出	130	無い	98
フジ	458	終わる	194	手紙	130	27時間テレビ	97
曲	434	凄い	190	泣ける	127	視聴	97
見る	410	頑張る	187	倒れる	126	寝る	94
フジテレビ	359	さんま	181	嵐	125	鬼	92
泣く	350	ダンス	179	クソ	124	仲居	92
感動	340	行く	177	見える	119	キレ	91
歌	338	プロ	170	香取	119	ブス	90
死ぬ	336	悪い	170	吾郎	118	後ろ	90
ライブ	331	人	170	好き	118	疲れる	90
言う	317	良い	170	面白い	118	佐野	88
思う	298	剛	168	来る	117	番組	88
スマップ	280	糞	166	ヤバ	116	ザキヤマ	87
出る	276	ゴロー	157	下手	114	指原	87
アイドル	256	ファン	147	ブラウン管	110	上手い	86
最後	241	太田	146	稲垣	109	マラソン	83
マジ	239	暑い	145	熱中	109	草薙	83
ロパク	232	聞く	145	CM	106	ハゲ	81
歌う	223	衣装	142	無理	106	爆笑	81

注1)「w」と「w」の違いは、全角と半角の違いである。
注2)「SMAP」の出現回数は956回であるが、これは半角で記載されたもののみの値であり、全角での記載（「SMAP」）も80回存在していた。

Figure & Table

まず，「w（22,457回）」，「w（4,919回）」といった視聴者の笑いを示す語が上位に挙がっていた。これらの語は，多くが単独ではなく「wwwww」のような形で複数連なって書き込まれるため，出現回数が多くなったと思われる。つづいて，「中居（2,820回）」，「SMAP（956回）」，「森（819回）」，「キムタク（687回）」，「SMAP（280回）」といった番組のメインであるSMAPのメンバーやSMAPの旧メンバーの名前が上位に挙がっていることがわかる。また，番組の進行状況をあらわす「キタ（629回）」「終わる（194回）」や，放送局に関する「フジ（458回）」，「フジテレビ（359回）」といった語，目玉企画であるSMAPノンストップライブに関連する「曲（434回）」，「歌（338回）」，「ライブ（331回）」，「口パク（232回）」，「歌う（223回）」などの語が挙がっている。その他では，「見る（410回）」，「泣く（350回）[5]」，「知る（202回）」など視聴者側の動向を示す一般的な動詞や，「感動（340回）」，「凄い（190回）」，「悪い（170回）」，「良い（170回）」，「糞（166回）」といった，視聴者の感情や番組に対する感想・評価をあらわす語が多く挙げられていた。また，「（明石家）さんま（181回）」「太田（光）（146回）」「森脇（健児）（137回）」「嵐（125回）」「佐野（アナ）（88回）」「ザキヤマ（87回）」「指原（莉乃）（87回）」「爆笑（問題）（81回）」といったSMAP以外の出演者の名前も多数上位に挙がっていることが確認された。

3-5.　各パートに特徴的な語

より詳しく投稿内容の特徴を探るために，KH Coderを用いて第Ⅰ部から第Ⅵ部の各パートそれぞれを特徴づける語を上位10個ずつリストアップしたものが**表3**である。

表3の結果をみると，まず第Ⅰ部においては，該当時間の放送内容である「サザエさん」の物語に番組のメインである「SMAP」が登場人物として「出」てきたことが実況的

●表3　各パートの特徴語

第Ⅰ部		第Ⅱ部		第Ⅲ部	
w	.073	似る	.061	中居	.182
w	.046	w	.039	w	.120
声	.045	ざわちん	.027	w	.055
キタ	.037	爆笑	.024	曲	.038
SMAP	.035	ザキヤマ	.024	キタ	.030
波平	.029	ライブ	.023	キムタク	.028
サザエさん	.027	太田	.022	歌	.026
ゴロー	.017	見る	.019	ロパク	.021
サザエ	.017	面白い	.015	死ぬ	.019
出る	.016	マスク	.014	歌う	.016
第Ⅳ部		**第Ⅴ部**		**第Ⅵ部**	
w	.070	森	.083	良い	.027
フジ	.050	キムタク	.042	STAP	.027
フジテレビ	.036	SMAP	.036	SMAP	.026
後ろ	.028	フジ	.029	NHK	.026
森	.027	泣く	.024	最後	.025
森脇	.026	フジテレビ	.024	終わる	.023
歩く	.022	感動	.023	録画	.022
佐野	.022	歩く	.023	面白い	.022
鬼	.021	手紙	.021	移動	.020
死ぬ	.020	見る	.021	言う	.019

※数値は Jaccard の類似性測度を示す。

Figure & Table

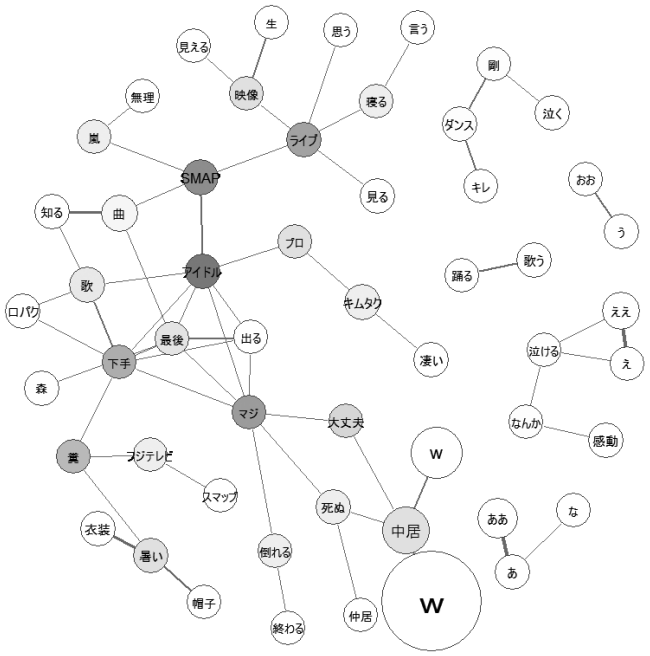
に語られていた。「声」に関しては，物語の中心であった「波平」の「声」を担当する声優が交代していた話題や，SMAP がアニメで声優を務めたことに対する感想などが投稿者の間で話題となっていた。とくに，SMAP のメンバーのなかで稲垣吾郎（「ゴロー」）が最も声優として優れていると評価している投稿が多くみられた。例えば，「波平の声はじめて聞いた」「あれ波平の声ちがくね？」，「ゴローが一番うまいw」「ゴロー声優っぽいw」「ゴローうますぎだろｗｗｗｗｗ」といった投稿である。このように，第Ⅰ部における投稿は，番組内容の実況や「サザエさん」という馴染みのあるコンテンツのなかで波平の声優や SMAP の登場といった新奇性がみられたことに対する反応に特徴づけられていた。

第Ⅱ部では，「ざわちん」による SMAP のモノマネメイクに反応した書き込みが多く確認された。ざわちんとは，巧みなメイク技術により自らの顔を芸能人に似せることで人気を博している女性タレントであるが，当該番組において，SMAP 全員のモノマネメイクを行い，5 人全員のモノマネメイクが完了した時点で番組で披露するという企画であった。第Ⅱ部ではこのモノマネメイクが披露され，「似ている」「似ていない」といったメイクの出来に関するコメントが多く投稿された。例えば「草なぎ似てる www」「誰一人似てないのが逆にすごい」といった投稿である。また，ざわちんが口元に「マスク」をしていることについて「ざわちんってマスクつけてないとものまね出来ないの？」「マスク取れよ」といった批判も投稿されていた。また，該当時間に登場した山崎弘也（「ザキヤマ」）や爆笑問題（「爆笑」「太田」）に言及した書き込みの多さも第Ⅱ部の特徴として示された。「面白い」に関しては，番組企画や爆笑問題のトークに関する評価にともなって多く使用されていた。例えば「面白いと思ってやってるの？」「やっぱり時事ネタ絡ませると爆笑って面白いな」「これ面白いってどれだーけハードル低いねん関東人…」「>>670 そんな関西人様はどなたが面白いんですかな？」といった投稿である。加えて，後に控えるメイン企画である「ライブ」を示す語も特徴語して挙げられている。例えば「あの流れでライブか

よ」「あとはライブだけか。つまらん。」「ライブ始まってる？」といった投稿である。このように，第Ⅱ部における書き込みは，ざわちんのモノマネメイクに対する評価や他の出演者のトークに対する反応，後につづくライブ企画への言及などによって特徴づけられていたといえる。

第Ⅲ部は，番組後半のメイン企画である「SMAP ノンストップライブ」に該当するパートである。ここではメンバーのなかでもとくに「中居」が強い類似性を示している。ほかに「w」「w」「死ぬ」という語がこの部の特徴語として挙げられているが，第Ⅲ部の共起ネットワーク[(6)]（**図 2**）を確認すると，これらの語は「大丈夫」といった語も含め互いに関連づけられていたことから，同一の文脈で多く用いられていることがわかる。例えば「中居 wwwwwwww」「中居が死にそう wwwwww」といった，いわば歌うことを休みだした中居に対するツッコミや失笑ともとらえられる書き込みや「中居大丈夫か…？」「中居くんマジ大丈夫か」といった中居の体調を心配する書き込みである。さらに，KWIC コンコーダンス分析[(7)]を用いて「中居」を抽出語とした文章を検索し，その前後の書き込みの記述とともに内容を確認したところ，中居が異変をきたしはじめた直後は「w」をともなったツッコミや笑いをまじえた書き込みが多いのに対し，終盤になると「w」を含む書き込みは激減し，ライブを中座したり，なかなか体調が回復しない中居を心配したりその様子を実況的に描写する書き込みが増えていった。一方，特徴語として挙げられた「キムタク」に関しては，共起ネットワークにおいて「プロ」「凄い」といった語と関連付けられていた。例えば「キムタクのプロ根性がすごすぎる　学ぶべきところだな」「キムタクがプロすぎて惚れる」「やっぱキムタクプロだわ　疲れを感じさせない」といった書き込みがあり，一部には体調を崩した中居と比較する形で木村拓哉を賞賛する書き込みがおこなわれていた。その他，「曲」「歌」「口パク」「歌う」といったノンストップライブに関連する語が特徴語として検出された。図 2 によると，これらの語は「SMAP」「知る」「下手」といった語と関連づけられており，例えば「この曲 SMAP だったのか」「結構

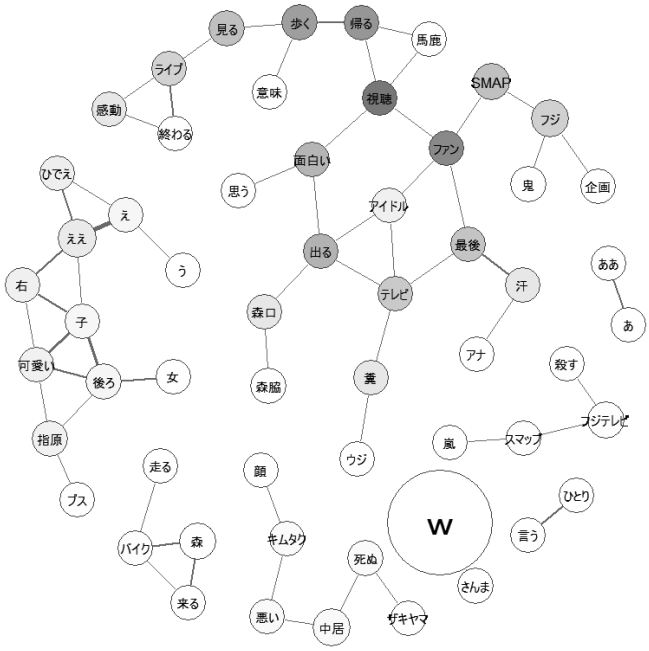
図2　共起ネットワーク（第Ⅲ部）



SMAPでも知らない曲あるな」といった書き込みや「口パクかよ」「さすがに口パクでも今日許すわw」といった実際は歌っていないのではないかという疑問，「下手になったぞ　口パクに戻せ！」「歌が下手だと安心する　だってそれがSMAP」といった歌唱力の評価に関する書き込みがみられた。また，特徴語としては検出されなかったが，共起ネットワークにおいて強い関連が示された「SMAP」と「アイドル」に関して，KWICコンコーダンス分析を用い，この2語を含む書き込みを検索した結果，「もうSMAPを超えるアイドルは出てこないだろうな　やっぱりSMAPすげーよ」「アイドル嫌いだけどSMAPはいいな」「これが国民的アイドルSMAPです　こんなプロのアイドルはSMAPだけだわ」などといった，SMAPの仕事ぶりを高く評価する書き込みが大半を占めていた。このように，第Ⅲ部はライブ中に体調を崩した中居正広や，中居とは対照的に疲れを感じさせない木村拓哉のパフォーマンスに関するコメント，SMAPの曲やライブに対する反応，SMAPの国民的アイドルとしての評価といった投稿によって特徴づけられていたといえる。

第Ⅳ部は，ライブ後のSMAPが会場からフジテレビ本社まで歩いて帰るというサプライズ発表と，他の番組出演者たちがライブの感想を述べるパートである。他のパートでも特徴語として検出されている「w」を除けば，このパートで最も類似性が高かったのは「フジ」「フジテレビ」である。共起ネットワーク（**図3**）をみると，「フジ」は「SMAP」「企画」「鬼」といった語と，「フジテレビ」は「殺す」「スマップ」といった語と関連づけられているため，これらの語が同一の文脈で使用された書き込みが多かったと推測できる。KWICコンコーダンス分析により，これらの語が用いられた書き込みを検索してみると，「フジはSMAPどうしたいんだよ　鬼すぐる」「これSMAPはガチで今後フジの番組出ないでいいと思う」「まじでフジの企画力疑うわ…」「フジマジ鬼畜やな」「（SMAPが）フジテレビに殺される」「フジテレビはスマップに甘えすぎ　酷使しすぎだろ，ふざけんな」といったフジテレビによる過酷な企画を厳しく批判するコメントが投稿されてい

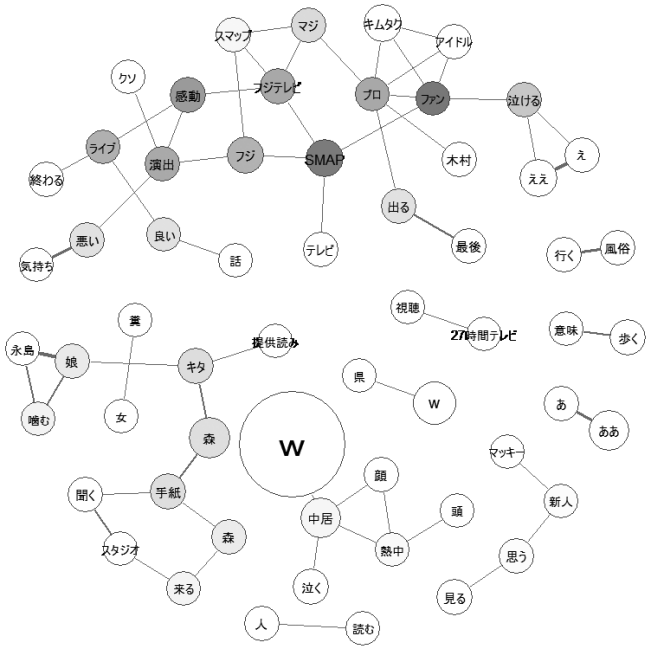
図3　共起ネットワーク（第Ⅳ部）



た。「後ろ」に関しては，「可愛い」「子」といった語と共起していた。書き込みでは「右後ろの子可愛い」「後ろのめっちゃ可愛い子は誰だ！」といった観客の一般女性に関する言及がなされていた。「森」に関しては，SMAP の旧メンバー森且行が番組に出演するのではないかという予測が掲示板内でなされており，「森くん来る？」「そうか，ゴールに森くんが居るんだな」といった森且行の登場を期待する投稿がなされていた。また，「森」は共起ネットワークにおいて「バイク」「来る」といった語と関連付けられており，「森くんがバイクで登場　中居くんを乗せて」「森君がバイクで送りとどける」など，森が現在オートレーサーとして活躍していることをふまえての妄想で盛り上がる様子もみてとれた。「森脇」に関しては，「森脇 wwww」「森脇キタ━━━━(゜∀゜)━━━━!!」などといった森脇健児の登場自体がネタになっている様子や，森口博子とともに出演したことで，かつて 2 人と SMAP が共演した番組『夢が MORI MORI』に関連した書き込み（「夢がモリモリ wwwwwww 森口 w 森脇 wwww」など）がみられた。そのほか特徴語を含む書き込みとして，フジテレビ本社まで「歩」いて帰るという企画についての言及や企画を発表した「佐野」アナウンサーに対する批判，過酷な企画によって中居が「死ぬ」のではないか，といった趣旨のものが存在していた。これらのことから，第Ⅳ部は企画元のフジテレビに対するネガティブな評価や，番組の本筋ではない周辺的な情報（観客の一般女性）に対する反応，森且行登場への期待などによって特徴づけられていたことがわかった。

第Ⅴ部は，番組のフィナーレに当たる部分である。このパートでは，旧 SMAP メンバーである「森」且行が「SMAP」へ宛てた「手紙」の朗読を聞きながら「フジテレビ」まで SMAP が「歩く」という企画の内容を示す語が挙げられる一方で，「感動」「泣く」といった感情を示すような語も多く使用されていた。「森」に関しては，共起ネットワーク（**図 4**）によると「手紙」「キタ」と関連づけられており，投稿者たちが森から手紙が届いていることをある程度予想し，期待していたことが窺える。「SMAP」は「フジ」「フ

図４　共起ネットワーク（第Ⅴ部）



ジテレビ」などと共起しており，「SMAP は頑張ったけどフジはやっぱゴミ」「SMAP は凄い　フジテレビは糞ってことを伝えたかったってこと？」といった両者を対比させて評価するコメントが存在していた。「SMAP」と「ファン」との間にも関連がみられたが，「SMAP ファンじゃないけどかわいそうすぎる（後略）」のように自分がファンではないことを前置きしたうえでコメントするパターンが複数確認された。「キムタク」に関しては「プロ」「ファン」「アイドル」といった語と関連づけられており，「キムタクすげーなまだファン構う余裕あるとか，プロ根性ハンパねー」「キムタクスーパーアイドルすぎるw」など第Ⅲ部でもみられた木村拓哉のパフォーマンス（笑顔でファンに手を振るなど）を絶賛する書き込みが多数見受けられた。「感動」に関しては，「フジテレビ」「演出」「ライブ」といった語と関連づけられていることがわかり，これらの語を含む書き込みとして「フジテレビ『感動路線大成功 wwwwwwwwwwwwwww』」「急に感動路線に走るフジテレビ」「歩かせる演出に感動を無理矢理こじつけるとか意味わからんw」「何これ？ライブ以上の感動は無理だろ」などがあった。投稿者が感動したという書き込みも少なからず存在したが，そのほとんどが視聴者を感動させようとする（しているようにみえる）フジテレビの演出に辟易している心情を述べるものであった。２ちゃんねるの投稿者たちによるフジテレビの演出の評価が低かったことは，「演出」が「クソ」や「悪い」といった語と共起していることからも窺うことができる。「泣く」は「中居」と共起しており，「中居泣いてるやん」「めっちゃ泣いてる中居…」など，森からの手紙の内容を聞き涙する中居の様子を実況的に指摘する書き込みが多くおこなわれていた。「不覚にも泣いた (´；ω；`)」のように投稿者自身が泣いたという書き込みも存在したが，その数はごくわずかであった。「歩く」に関しては「これ歩かせる意味が本当にわからん　企画したやつ頭おかしい」などのような企画の意味を問う書き込みが大半であったが，「歩かせた意味，これだったのか　泣く場所やったんだな　今回は」となどのように企画の意図を理解したことを示す書き込みもごくわずか存在していた。このように，第Ⅴ部の書き込みは，森の手紙に対するSMAP（とくに中居正広）の反応へのコメントとフジテレビの企画・演出への批判，木村拓哉のパフォーマンスに対する高い評価などによって特徴づけられていたといえる。

第Ⅵ部は，番組終了直後から実況板のスレッドへの投稿がなくなるまでの約５分間のパートである。まず，番組を振り返り，番組全体や番組の「最後」や「終わ」り方が「良」かった，あるいは「面白」かったと評価する書き込みが見受けられた。例えば，「最後アナウンサーとか他の演者がドヤドヤ出てこないでスマップ５人だけで〆たのが良かった」「最後の方でよれた５人が坂道を登って歩いてたところが良かった　アラフォーの鏡だ」「今年はなんだかんだ面白かったと思える時間が長かったような印象はあったかな」といった書き込みである。「SMAP」に関しても「とりあえず SMAP は凄かった」「SMAP はガチ頑張った（後略）」など，SMAP を高く評価するコメントが投稿されていた。「STAP」「NHK」「移動」に関しては，当該番組終了後の 21 時から NHK 総合の『NHK スペシャル』において，当時大きな話題となっていた「STAP 細胞」に関する論文の不正疑惑についての検証番組[(8)]が放送されたため，フジテレビから NHK へチャンネルを「移動」，もしくは実況板を「移動」する，という文脈で使用されていた。「録画」に関しては，番組を録画した，録画していた深夜枠を見る，など投稿者の録画状況について言及する書き込みがみられた。このように，第Ⅵ部は番組の終わり方や SMAP に対する高評価，投稿者（視聴者）たちのフジテレビから NHK へのチャンネル移動に関する書き込みなどによって特徴づけられていた。

▶ 4．考　察

本稿の目的は，次の問題について検討することであった。すなわち，テレビ番組の視聴者が２ちゃんねる上で番組について投稿するとき，彼らは番組のどのような点に注目し，書き込みをおこなうのか。その傾向には，Twitter 上での投稿と比較して違いがみられるのだろうか。以下では，ここまでの分析結果を関連研究（志岐，2015）において同番組に対し Twitter 上に投稿されたツイートにみられた特徴と比較しながら，この問題について考察していきたい。

まず頻出語について，２ちゃんねるにおける書き込みでは，メイン司会の SMAP メンバーの名前とともに，SMAP 以外の番組出演者の名前も頻出語の上位に挙がっており，多くのコメントが投稿されていた。一方，関連研究における同番組に対する Twitter への書き込みについての分析では，上位 100 語に入っていた人名は旧メンバーの森を含む SMAP メンバーの名前のみであった（志岐，2015）。

また，２ちゃんねるでは「糞」「クソ」「下手」「ブス」「ハゲ」といった明らかにネガティブな意味合いを持つと判定できる語も上位に挙げられていたが，Twitter ではこのようなネガティブな語は上位に挙がらなかった。

関連研究での Twitter と同様，本研究の２ちゃんねるにおいても書き込み件数が急増するポイントがいくつか存在していたが，Twitter と２ちゃんねるを比較したとき，以下のような共通点および相違点が確認された。まず，中居のアクシデント発生の場面で投稿が急増する点は Twitter と共通していた。相違点としては，２ちゃんねるでは，ざわちんのモノマネメイク，他の出演者によるライブの感想，新人アナの提供読みなど，SMAP がメインで画面上に出ていない箇所でも書き込み件数が急増するポイントが存在していたが，Twitter ではツイートが急増するポイントはすべて SMAP が画面に登場している場面であった点が挙げられる。つまり，２ちゃんねるではメイン司会の SMAP が出ていないときでも多くの投稿がなされるタイミングがあるというところが，Twitter と２ちゃんねるの書き込み件数の推移にみられた大きな相違点である。

本稿では，こうした相違点をみる視座として，Twitter と２ちゃんねるそれぞれの投稿内容と，テレビ番組自体の中心的なコンテクスト（文脈）との間の距離感に着眼することが有効であると考える。

テレビもメディアでありその発信者である以上，たとえそれが 27 時間という長時間にわたろうとも，制作者や出演者の間で共通したコンテクスト，言い換えれば番組としての「ねらい」を持っていることは当然である。対象とした当該番組も，キャッチコピーに「武器はテレビ」という言葉を掲げ，ポスターには坊主頭にした SMAP 5 人のメンバーのモノクロ写真を使うという，いわば“戦闘的”なモードを演出していた。この 20 年を通じて最もテレビを席巻してきたというべき SMAP メンバーを軸として番組の面白さを伝える方向性であったといえる。

分析結果をみると，概ね Twitter 上の書き込みはこの「SMAP の 27 時間テレビ」という番組のメインのコンテクストに沿うものが多くなっている，つまり書き込み自体も番組の中心的テーマに即したコンテクストを形成している。それに対し，２ちゃんねる上での書き込みは，あえてこの番組のメインのコンテクストを逸らし，番組内の別の周辺的なコンテクストに着眼したり，番組のコンテクストとは別のコンテクストを生成する方向でも書き込みがおこなわれていたとみることができる。

例えば，第Ⅱ部に関して，Twitter における書き込みはライブへの期待と応援を中心としたツイートによって特徴づけられていたが，２ちゃんねるではそのとき画面に登場して

いる人物について多く言及されており，特徴語としてさまざまな出演者の名前（ざわちん，爆笑（問題），ザキヤマ，太田）が検出されていた。Twitter の投稿では，この番組の主役である SMAP へのコミットメントが多いのに対し，２ちゃんねるの投稿では SMAP 以外の出演者，細部の登場人物へ意識が向けられていたとみることができる。このような傾向は第Ⅳ部でもみられ，ここでは，投稿内容が過酷なサプライズ企画を発表したフジテレビに対する批判によって特徴づけられていた点は Twitter，２ちゃんねるともに共通していたが，２ちゃんねるでは出演者の後ろに映っている一般女性に対して多数のコメントが投稿されるなど，番組の本筋ではない，いわば周辺的な部分についての書き込みがなされており，このパートを特徴づける語として検出された点が Twitter とは異なっていた。

また第Ⅲ部は，SMAP のなかでも MC 能力に長けると評価され番組進行上も中心であった中居正広が体調を崩すというアクシデントがあり，放送上もインパクトが強かったセクションであるが，この際，Twitter 上の書き込みは中居のアクシデントへの反応と応援という内容によって特徴づけられた。一方で，２ちゃんねる上の書き込みはアクシデントへの反応という内容で特徴づけられる点では Twitter と共通していたが，中居を応援するような書き込みはこの部を特徴づける内容としては検知されなかった。詳細をみてみると，２ちゃんねるでも中居を応援するような書き込み（「中居頑張れ！もうちょっとや！」など）を一定数確認することはできるものの，統計的にこの部の特徴として検出されるほどの数には達していなかったといえる（ただし，これは表記ゆれの問題である可能性も考えられる[(9)]）。さらにいえば，２ちゃんねるにおいて木村のパフォーマンスを高く評価するような書き込みが多かったことは Twitter の投稿内容の分析ではみられなかった特徴である。SMAP5 人のメンバーのなかでも，番組上のコンテクストの中核として中居が注目された分，5 人のなかではそれとは別のコンテクストを演じた木村に，２ちゃんねるの投稿者たちの視聴の目線が向いたと考えることができる。このことは，第Ⅴ部においても同様だった。森の手紙に対する反応やフジテレビの批判についての書き込みによって特徴づけられていた点は Twitter と共通しているが，木村のパフォーマンスを高評価する書き込みが多かったことは，２ちゃんねるにのみみられる特徴となっている。

さらに，番組放送終了後の第Ⅵ部は，Twitter では「お疲れ様」「ありがとう」といった感謝やねぎらいを示す内容の投稿によって特徴づけられていたが，２ちゃんねるでは番組や SMAP を高く評価している点は特徴として挙げられたものの，感謝やねぎらいを示す内容は特徴として検出されなかった。また，２ちゃんねるでは NHK の別番組についての言及がみられたことも特徴的であった。

このように，Twitter のユーザーは，番組そのものやこの番組の主役である SMAP メンバーへの言及が大半を占め，応援や感謝のコメントが多く投稿されるなど，番組のメインの流れに積極的にコミットするような書き込みを多くおこなっていたと分析することができる。

一方，２ちゃんねるの投稿者は，番組内の周辺的な要素に着眼したり，番組とは別に投稿者間で盛り上がるなど，番組のメインのコンテクストに距離を置いたり，番組とは別のコンテクストを投稿者間で生成する傾向があるということができるだろう。本研究の分析では，他の投稿者に向けたコメントが約 7％の割合で確認でき，Twitter よりも頻繁に投稿者同士のコミュニケーションがおこなわれていたといえる[(10)]。テレビ番組に対する２ちゃんねるの書き込みには，「投稿者に向けての感想」，「実況（した投稿者）へのねぎらい」，「他の投稿者に対して情報を求める」といった利用者同士のコミュニケーションが活発に行われており，その過程のなかで利用者間に「連帯感」が生まれることが確認されている（山本，2011）。その他の２ちゃんねるに関する研究においても，利用者間で「内集

団」が形成されるという特徴が指摘されている（平井，2007）。一方，本研究の分析においては，投稿者同士のコミュニケーションに関して，山本が指摘したような投稿者へ向けたコメント，他の投稿者に対して情報を求めるといった形でのコミュニケーションは一定数確認できたものの，実況（した投稿者）へのねぎらいを趣旨とした書き込みはごく少数にとどまっていた[11]。このことを鑑みると，山本や平井の研究がおこなわれたときと，5年から10年近く経過した現在とでは，２ちゃんねる上での「互いをねぎらう」という形のコミュニケーションの多寡や投稿者間の「連帯」のありようが変化してきたといえるかもしれない。また，西田（2009）による２ちゃんねるの分析では，番組放送中はユーザー同士のやり取りが少なく，放送終了後に多く議論が交わされていることが報告されていることから，実況板とは別のところで，投稿者同士のより活発なコミュニケーションがおこなわれている可能性も考えられる。

今後，インターネットサービスのさらなる多様化が想定されるなか，本研究の課題はさらに緻密に分析される必要があると考える。一例を挙げれば，２ちゃんねるにおいて番組や出演者に対するネガティブな表現が多く投稿されていたことは上述のとおりであるが，その理由は何かという問題は課題として残されている。それが本当に批判的な意図を持ったものなのか，あるいは主たるコンテクストにコミットすることへのいわば「照れ隠し」の反映なのかといった点は，大衆としての「マス」の心理の現在を捉える上で鍵になってくるように考えられる。

●注

1．番組の放送終了後もインターネット上では当該番組の話題がしばらく継続される可能性があるため，放送終了後5分までの投稿を分析対象に含めることとした。該当する第Ⅵ部について，Twitter上の書き込みを分析した関連研究（志岐，2015）では23時59分までに投稿されたものを分析対象としていたが，本研究では20時59分までとしている。これは，分析対象となる書き込みを収集した２ちゃんねるのスレッドが「実況板」であり，放送終了後まもなくコメントが投稿されなくなったためである。よって，本研究では実況板スレッドで収集することのできた20時59分までの書き込みを分析対象としている。
2．KH Coderとは，樋口耕一によって開発されたテキスト型（文章型）データを統計的に分析するためのソフトウェアである。「計量テキスト分析」または「テキストマイニング」の方法に対応している。
3．基準として，書き込み件数が3分前から200件以上増加したポイントをピックアップしている。
4．具体的には，名詞，サ変名詞，形容動詞，組織名，人名，タグ，感動詞，動詞，形容詞，形容詞B，名詞Cを分析に使用した。なお，強制抽出した語は「タグ」という品詞で検出される。形容詞Bおよび名詞Cの詳細な説明については，樋口（2014）を参照されたい。
5．ただし「泣く」に関しては，視聴者側の行為を示すものだけでなく，SMAP旧メンバーからの手紙に中居正広が「泣いて」いるように見えるという中居の動向を実況する趣旨の投稿にも多く使用されていた。
6．共起ネットワークとは，出現パターンの似通った語，すなわち共起の程度が強い語を線で結んだネットワークのことを指す（樋口，2014）。
7．KWICコンコーダンス分析とは，分析対象ファイル内で抽出語がどのように用いられていたかという文脈を探る分析手法である（樋口，2014）。
8．『NHKスペシャル　調査報告　STAP細胞　不正の深層』2014年7月27日21時00分～21時49分放送（http://www6.nhk.or.jp/special/detail/index.html?aid=20140727）。
9．例えば，今回分析に用いたKH Coderでは「頑張れ」は「頑張る」の活用形として検出され分析に含まれるが，「がんばれ」は平仮名表記であるため分析に含まれない。インターネットの書き込みに関する内容分析の際は，このような表記のゆれにともなう問題について十分に考慮する必要があるだろう。
10．Twitterにおける投稿者同士のコミュニケーションは約1%であった（志岐，2015）。
11．例えば，第Ⅴ部および第Ⅵ部において，「おつかれ」「お疲れ」という語を含んだ書き込みは30件確認できた。そのうち14件はSMAPに向けられたものであり，明確に他の２ちゃんねる投稿者に向けられたものとして確認できたのは5件のみであった（うち1件は特定の他の投稿者に宛てて投稿されたものである）。

●参考文献

樋口耕一（2014）　社会調査のための計量テキスト分析　内容分析の継承と発展を目指して　ナカニシヤ出版．
平井智尚（2007）　２ちゃんねるのコミュニケーションに関する考察 ―インターネットと世論形成に関する議論への批判―　メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要），57，

163-174.
KH Coder http://khc.sourceforge.net/
小島博・執行文子（2014） テレビとインターネット：番組関連の同時利用の実態を探る：E ダイアリーとデプスインタビューによるケーススタディーの結果から 放送研究と調査，64(7)，82-100.
三浦基・小林憲一（2010）“テレビの見方が変わる”―ツイッターの利用動向に関する調査― 放送研究と調査，60(8)，82-97.
西田善行(2009)「視聴者の反応」を分析する ―インターネットから見るオーディエス論 藤田真文･岡井崇之(編)『プロセスが見えるメディア分析入門 コンテンツから日常を問い直す』世界思想社 145-169.
志岐裕子（2013） インターネット世代のテレビ・コミュニティ ―大学生のテレビ視聴 萩原滋（編）『テレビという記憶 テレビ視聴の社会史』新曜社 158-176.
志岐裕子（2015） テレビ番組を話題とした Twitter 上のコミュニケーションに関する検討 メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要），65，135-148.
志岐裕子・村山陽・藤田結子（2009） 若者のテレビ視聴とメディア並行利用行動 ―大学生のオーディエンス・エスノグラフィ調査から― メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要），59，131-140.
志岐裕子・渋谷明子・萩原滋（2012） 若者のテレビ視聴と SNS 利用 日本社会心理学会第 53 回発表論文集，353.
総務省（2015） 情報通信白書 平成 27 年版
http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h27.html（2016 年 11 月 25 日）
山本明（2011） インターネット掲示板においてテレビ番組はどのように語られるのか マス・コミュニケーション研究，78，149-167.

志岐裕子（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員）